

第12回ふくろうふれ愛まつり(10/22)

テーマ～淡路・中川原の歴史に学ぶ・明日を拓く



台風も吹かずに開催は笑顔の渦

ふくろう新聞

<発行> ホーム
特別養護老人ホーム 郷会
淡路ふくろうの郷会
広報委員
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551
ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

11月1日、念願の短期事業が1年数か月ぶりに再開しました。昨夏からの休止で信頼を弱めたにも関わらず、次々と利用してくださっています。そんな時、地元の歌手・堂内克様より「リサイタルの収益の一部です」と温かなご支援をお寄せいただいた。全力でこの信頼と応援に応えたい。

今年のふくろうふれ愛まつりクルの有志、職員による模擬店も開は、想定していたより巨大で速度店、しらす井やみたらし団子、コロの早い台風21号の接近により開催ツケなど楽しめました。

しかし、多くの人が楽しみにしてなかなか舞台発表を観られなかったおり、また、模擬店を開くために入居者にも観ていただくことができ準備していただいている材料が無かったです。みんなの笑顔は例年より何駄になるのではないかと、何とか倍も大きかったと思います。たまに能な範囲で開催したい、との思いはこんな小さなお祭もいいなあ、とで予定が

2転3転、最終的に中川原ふれあいセンターで予定されていた子ども企画等については全面中止、規模を縮小し、ふくろうの郷施設内だけで開催することとなりました。

規模を縮小し、ふくろうの郷施設内で

感想をいただきました。ふれ愛まつりの開催にご協力いただいた皆様方、本当にありがとうございました。臨席を予定していたいたご来賓の皆様、また舞台発表や模擬店の出店を予定いただいていた皆様、ご迷惑をおかけしました。来年は是非、表彰を行いました。職員は10年勤続秋空のもとで楽しんでいただけたら幸いです。

また施設内では淡聴協、手話サー、事務局長 稲井大湖

職員勤続10年表彰

おめでとうございます

家族会より長寿のお祝い



▲勤続表彰を受ける職員のみなさん

- 仙寿 100歳
- 梶内 嘉蔵さん
- 米寿 88歳
- 前田 千鶴子さん
- 勝楽 佐代子さん
- 黒崎 時安さん
- 北風 章子さん
- 福島 豊子さん
- 喜寿 77歳
- 藤本 紀代さん



▲お祝いを受ける入居者さん

展示

入居者作品展



▲ふくろう大学の作品「ちぎり絵」



江戸時代に中川原で発見された銅鐸から来年春に開所予定の「淡路中央スマートインター」までの歴史について展示。苦難を乗り越え中川原を築いてきた先人達の足跡から学ぼうと企画しました。

ふくろうふれ愛まつりの様子

模擬店



▲手話サークル有志によるみたらし団子。少し硬かったけれど、やさしい味がしました



▲コーヒー・お茶席も満席です。交流の場ともなり、話にも花が咲きました。



▲ふくろう職員によるしらす井、牛井、手作り梅干しの販売も。ソースせんべい完売となり、お好み焼きを追加。

入居者による劇



▲淡路島で一番大きな農民一揆「縄騒動」によって、後に処刑され、中川原に奉られている「才蔵地蔵」を題材にしました。演じる入居者たちもなかなかの役者ぶりでした。広島さんは「明石で暮らしていた時に劇をやった。次回は是非出たい」と目を輝かせていました。

フィナーレは全員で阿波踊り



谷口さん旅田さんの笑顔が何とも言えません。「のつてますね……」



72年ぶりに会えた喜び

武内千代美さんの人生の宿題に寄り添う取り組み

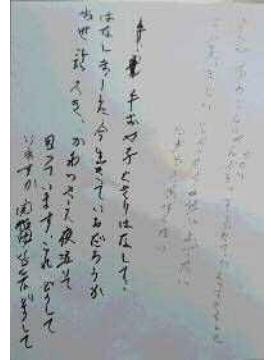


南あわじ市生まれ。91歳。2016年3月、ふくろうの郷へ入居。昭和16年ごろ、円丁誠一団長率いる「満蒙淡路開拓団」の一員として満州へ。

開拓団 皆などうしていますか

このつぶやきを武内さんの人生の宿題と受け止め、「淡路満蒙開拓団」について調べました。

そして、淡路開拓団の一部の方は、戦後淡路に戻ったのち、三田テクノパーク風車の丘あたり一帯を開拓し、現在も生活されている方もいらっしやると分かり、10月3日、武内さんと一緒に三田市を訪ねました。



武内さんは伝えたいことをメモに書いてくれます



お互い逃げて、逃げて、帰ってこれてよかったなあ。

若い女は捕まったら困るから顔を真っ黒に塗って、男みたいにしようと思ったなあ。



始めのうちは砂糖や米など日本にないものがたくさんあった。作物もよく育った。戦況が激しくなり、敵から隠れて、コーリヤンの葉の下に隠れてるのがかくれんぼみたいだった・・・。

円丁はんのおかげで無事帰ってこれたんよ。・・・なつかしい話が続きます。「春にまた会おうね」と約束。



三田にある円丁誠一翁碑

武内さんの「人生を辿る」に同行して

生活援助 中村 久香

当初「三田にお連れして、本当にお分かりいただけるだろうか」と不安でした。ですが、年を重ね、若い時に同じ経験をされた方とお会いする援助に取り組み今を生きる意味、経験を私たちに伝えていただくという大切なことを学ばせていただきました。

一人ひとりの人生にふれ、その方の中から寄り添い支援していくという介護の一番大切な部分にふれることができました。

昭和20年の敗戦による引揚は困難をきわめるものだった。しかし円丁団長の尽力でほとんど犠牲者を出さず帰国できたという。円丁団長は淡路島五色村に帰ってから兵庫県と掛け合い、新しい開拓地として、三田の広野に50名の同志と入植した。今の風車の丘一帯にある淡路大池は市民のつどいの場となっている。

**淡路聴覚障害者
センター便り**

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館3階

60歳まで働きづめの日々を送られました。

家族や親しい友人との別れ

倉本さんはいつもにこやかで、

人柄がよく、また漁師町の近

所もおおらかな方が多くて、近

くの病院等で会ったりすると、

「最近元氣？どこ悪いの？」と身

振りと目で話がはずみます。そ

んな明るい面もある倉本さんで

すが、震災前には母を、また震

災後には兄と続けざまに死別さ

れました。さらに懇意にしていた

友人も亡くなるなどの別れが

続き、寂しさや不安から精神

的に不安定となり入退院を

繰り返されます。

得意の編み物で、毎日

楽しく作業

体調が落ち着いた平成24

年頃から以前利用されていた

おこの家の通所を再開、

今では週4回利用されています。

持ち前の明るさで周囲も

自然と笑顔に包まれます。手

先が器用で、特に編み物が得

意です。おこの家ではかぎ

針で編んだ座布団は「あなた

かく丈夫」と好評です。倉本

さんも「これどう？」とお勧め

上手なので、次々と注文が入

り、これからの寒くなる季節

にはまた忙しくなりそうです。

「肩が凝るなあ」と言いな

がらも、任せられた仕事にや

りがいを感じられています。

(楠本 恵利子)

**12歳からマツチ工場な
とど働きづめ**

学校での教育は受けること

ができず、12歳の頃にはす

に母親と一緒に家の近くのマツ

チ工場、そして軍手の縫製工

場と働きづめの毎日だったと

言います。工場が閉鎖となり、

母と大阪に転居、雨合羽の製

作工場で母と一緒に働きなが

ら生活をされていました。15

年ほど勤めましたが、雨合羽の

工場も閉鎖となり、大きな失

意をかかえて母親と淡路に帰

つて来たと言います。その後、

靴工場、お寿司屋の手伝いと



▲編み物をされる倉本史子さん(左)いつも仲良く作業されている春木さよ子さんと

**12歳から働きづめ
苦勞は腹にしまいいんで**

要約筆記のしくみ

要約筆記啓発講座 広田地区公民館

10月7日、14日と要約筆記 啓発講座を開催し、7名の参加がありました。参加者からは「要約筆記は想像していた以上に難しかった。聞きながら話をまとめて分かりやすく伝えることの重要性も理解できた」との感想をいただきました。講座終了後、サークルに入会された方もおられ、今後、中途失聴者・難聴者への理解を深め活動の場を広げていかれることを期待しています。(楠本)



▲声を出さずに筆談で会話する受講生

「相談支援従事者初任者研修」を終えて

相談支援専門員の資格を取るため、5日間の研修を終えました。研修では「相談支援における基本姿勢」と「本人中心支援」について学びました。ご家族や関係者の意見が強く、本人が本当の希望を言えないことが多く、そこを相談員がしっかりと本人の意見・希望を聞き出すことが大切です。出来ること・強さ(ストレングス)に着目し、相談員が課題を解決するのではなく、提供できる制度やその他の社会資源を紹介しながら、本人が主体的に活用して課題解決に取り組めるよう、今後の支援に活かしていきたいと思ひます。

相談員になってから人とのつながりの大切さに気付き、分からない中でも協力してくれる方々に支えて頂きながら、日々成長し、利用される方々をしっかりと支援していきたいと思ひます。

(淡路聴覚障害者相談支援事業所 管理者 稲井愛里)

中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター



〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992

城下町洲本レトロな まち歩きに出店して

～おのころ屋～

10月14日(土)・15日(日)の2日間、「第12回城下町洲本レトロなまち歩き」が洲本市本町の「レトロこみち」周辺で開か



れました。おのころ屋も2日間、出店しました。開催前から雨が心配されましたが、雨が降る中での開催となりました。雨の影響もあり、例年と比べると少なかったですが、2日間を通して約8千人の来場者がありました。そんな中、おのころ屋にも常連のお客様や2日間続けて来店してくださるお客様もおられ、何かとお声かけしてくださることに励まされています。

雨の影響のため、売り上げは7万5千円といつもの半分くらいでしたが、利用者の皆さんも製造・販売とそれぞれ役割を担い、雨の中、店舗から販売ブースまで焼き立てのパンを運んでくれました。皆で協力し合い無事に2日間終える事ができました。

(職業指導員

山田 裕美)



第12回 城下町洲本レトロなまち歩き

お餅とケーキなどを完売 荒天の中ふくろうふれ愛まつり

第12回ふくろうふれあいまつり、今までになく雨に振りまわされました。

おのころの家としてやきとりやいかやきをして楽しんでもらおうと計画していたのに・・・やむなく中止にしました。でも、お餅だけはたとえ少しでもいいから、のこってもいいからと少なめに作りました。淡路ふくろうの郷での小規模のお祭り、外は雨でも建物の中は活気があり、盛り上がりがありました。



▲通所者と一緒に作ったもちなどを並べて準備

お餅やパウンドケーキなども完売しました。お昼ごはんもゆっくり、いろいろなものを食べる事ができました。お抹茶も時間を気にせず、ゆったりといただきました。台風のおかげでゆっくりとした時間を過ごすことができ、リフレッシュできた一日となりました。

(支援員 藤本美保子)

おのころの家新職員の紹介

私が、9月18日よりおのころの家で働かせていただくようになって2ヶ月になります。手話ができない私に、利用者さんは間違った私の手話を何度も丁寧に教えてくださいました。そんな優しい気持ちに早く答えられるように頑張ります。

でも、ただ手話ができるということではなく、相手に心が伝わる「生きた手話」で利用者さんとコミュニケーションがとれると共に信頼される職員になりたいと思っています。これからもよろしくお願いします。

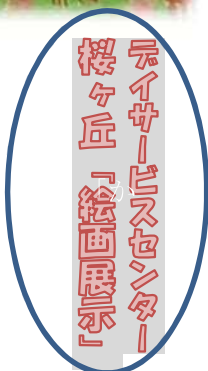
(支援員 小松美枝)



「紅葉」



「食欲の秋」





▲バザーの準備をする遠山久美さん(左)

10月7日(土)第2回「神戸市における聴覚障害者福祉拡充のための検討会」(主催NPO神戸ろうあ協会)が開かれました。神戸市の障害者支援課、有識者、聴覚障害者関係団体の代表が出席の中、当事者から現状を報告しました。ろうあハウスからは「ろう重復障害者の生活とニーズ」(ろう

神戸市における聴覚障害者福祉充実を

神戸市における聴覚障害者福祉充実を

7652-0897
兵庫県神戸市兵庫区駅南通5・4西高築下16号
TEL & FAX ... 〇七八・五七九・〇七五五

神戸市における聴覚障害者福祉充実を

共同作業所 神戸ろうあハウス
神戸ろうあハウス デーサービスセンター

安心して暮らせる福祉施設を!!

重複聴覚障害者の親とって

家族の会 遠山 久美

障害者の娘をもち、幼い頃は、周りから白い目で見られ、差別され、色んなことを言われ、それに耐えながら今日に至っています。娘は、聴覚障害と知的障害があり、また性格的にもおっとりしていることもあり、同じ聞こえない障害のある子供たちが通うろう学校でも、いじめられる存在でした。卒業して、就職をしましたが、「出勤が早すぎる」「会話ができない」と責められ、娘は精神的に追い詰められて、家では大声をだしたり、暴れたりすることが続き、退職を余儀なくされました。その後は在宅生活になり、いつも一人ぼっちでした。親としては、行き場があつて、なかまができればいいのにと願う毎日でした。

募るばかりです。

夢や希望がかなえられる場所を

「出勤が早すぎる」「会話ができない」と責められ、娘は精神的に追い詰められて、家では大声をだしたり、暴れたりすることが続き、退職を余儀なくされました。その後は在宅生活になり、いつも一人ぼっちでした。親としては、行き場があつて、なかまができればいいのにと願う毎日でした。

あ高齢者の生活とニーズ」とのテーマで報告しましたが、特に家族の会から遠山さんが親としての切実な思いを話されました。その全文を紹介いたします。

作業所への通所で

気持ちにも安心感

10年ほどそんな生活が続いたころに、聴覚障害者の通える作業所ができ、通うようになりました。今年で18年目になります。

今までに一度も「やめる」と言うことはありません。娘は気が弱

ふくろうの郷見学予定

- 11/17 (金) 地域活動支援センター たつのこ作業所様 (香川) 25名
- 11/19 (日) 大阪市鶴見区聴言障害者福祉協会様 32名
- 11/20 (月) 神河町民生児童委員協議会様 39名

ひょうご介護サポーター研修の開催

平成29年12月16日(土) 10:00~16:30
午前 認知症について学ぼう(認知症予防教室)
午後 介護実習・食事介助・施設見学等
場所 淡路ふくろうの郷
参加予定人数 20名 参加料 無料
お申込みは淡路ふくろうの郷まで。

11月・12月ふくろうの暮らし

- 11/21 (火) 入居者自治会懇談会
ふくろう大学絵手紙講座
- 11/25-26 (土・日) 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会(埼玉)
- 12/2 (土) 地域交流会手話講座
- 12/4 (月) ふくろう理髪店・おのころパン
- 12/12 (火) ふくろう大学書道講座
- 12/15 (金) ふくろう大学ちぎり絵講座
- 12/16 (土) 地域交流会手話講座
- 12/19 (火) 入居者自治会懇談会
- 12/20 (水) 中川原地区老人クラブ連合会
しめ縄・餅つき大会・来年の漢字
- 12/22 (金) ふくろう大学料理講座